

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL

44

2016

明日の信頼される医療人を目指して

DOCTOR'S VOICE 01 眼科専門医が育つ新たな取り組みをスタート

DOCTOR'S VOICE 02 地域消化器免疫医療学講座の設置

DOCTOR'S VOICE 03 幅広い領域の疾病を診断する総合診療科を新設

FROM VIP DOCTOR 愛媛県立新居浜病院院長に聞く



新任教授紹介

眼科専門医が育つ新たな取り組みをスタート

眼科学講座教授 白石 敦

当院の眼科は様々な眼科領域の専門家が在籍し、地方大学ではありますが、全国レベルの診療が幅広くできます。この状況を継続し発展させていく為に、若手医師を全国レベルの専門医に育てることが今後の課題です。20代、30代の若手医師には、愛媛大学のみならず積極的に国内外の専門家のもとで学んだ後に、愛媛大学に医師として、又は新たな眼科医の育成を担う教員として戻ってきてもらうことで、幅広い専門分野の診療体制が、継続し発展できると考えています。

2015年8月に羊膜バンクを設置し、2016年4月までに10例の羊膜移植を行いました。愛媛県での安定した羊膜移植という当初の目的に関しては順調だと思っています。ただ、他施設への供給という面ではまだ十分に認知されていません。情報を発信し、他施設への供給も推進していきます。

また、2016年4月から白内障手術が外来の日帰りで実施できるようになりました。これまで数日の入院が必要でしたが、日帰り手術が可能になることで、手術件数も格段に増加し、多くの患者さんに適切な治療が素早くできるようになります。

私は、患者さんとコミュニケーションを取り、患者さんの真意を汲んだ診療を進めるのが医師だと思います。そういった診療とともに当院に期待されている先進医療にも取り組んでいきます。



PROFILE

しらいしあつし◎日本医科大学卒業。1986年から外科医として勤務。1995年医学博士取得。1998年から愛媛大学医学部附属病院で眼科医として勤務、2003年眼科専門医認定。2009年愛媛大学医学部附属病院眼科長就任、2016年3月より現職。専門は角結膜疾患、涙道疾患。趣味はマラソン・トライアスロン。

寄附講座「地域消化器免疫医療学講座」の設置

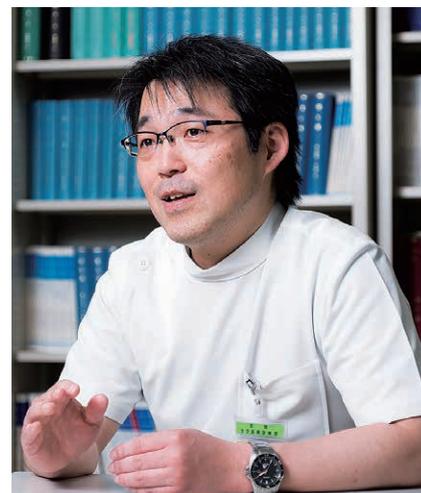
地域診療への貢献と、研究・診療レベルの向上を目指します

地域消化器免疫医療学講座准教授 竹下英次

本講座は、西条市の要請で設置され、西条市立周桑病院に当院から医師を派遣し、消化器を中心とした内科診療を担当・支援することで、西条地区の診療体制の充実を目的としています。現在、西条、特に周桑地区は、救急当直や消化器を中心とした内科診療に関わる医師不足が深刻で、診療体制の維持が重要な課題となっています。そのため、本講座は目の前の診療だけでなく、周桑病院において、消化器内科学全般と地域・救急医療の研修や卒後教育も行い、将来の西条地区の地域医療を担う医師を育てる体制も整えていきたいと考えています。

また本講座を通して、愛媛大学における消化器免疫疾患の研究・教育レベルの向上とともに、県内の消化器免疫疾患の集約化により、診療レベルの向上も図りたいと考えています。特に消化器・内分泌・代謝内科学の研究である「炭酸脱水酵素I (Carbonic anhydrase I : CA I)」は炎症性腸疾患に対する免疫治療への展開の可能性のみならず、免疫疾患全般への応用が期待できるものと思っています。

私自身は、消化器内視鏡診断・治療が主な専門ですが、地域医療や救急医療、消化器領域以外の診断・治療を行ってきた経験があります。その経験を活かし、消化器内視鏡分野にとどまらず、幅広い分野を取り入れた講座運営にあたりたいと思います。



PROFILE

たけしたえいじ◎1996年愛媛大学医学部卒業。第三内科に入局、県立中央病院、県立北宇和病院、2005年大学院卒業後は、松山赤十字病院、市立宇和島病院を経て当院へ。消化器内視鏡診断・治療が専門。趣味はドライブ、音楽鑑賞。

幅広い領域の疾病を診断する総合診療科を新設

病気を心身から全人的に診療する総合診療医を養成します

総合診療科教授 川本龍一

3月から当院で総合診療科の外来診療を開始いたしました。これは来年度から始まる新しい専門医制度に「総合診療科」が新設されることを受け、総合診療実践と総合診療医育成を目的としたものです。

総合診療科では、病名がわからない、何科に紹介すればいいのかわからないという患者さんを、外来で問診や身体所見を手掛かりとしながら病気の診断を行います。症状が一向に改善しない、症候がはっきりしない等の患者さんに対しては、適切な診断や必要に応じた継続的な医療を実施していきます。また、各科の専門医や他職種と連携しながら、多様な医療サービスを包括的かつ柔軟に提供することにも取り組んでいます。

このように総合診療医は、病気を心身から全人的に診療する「広さと多様性」を必要とします。これは、地域医療を担う「地域を診る医師」の養成にも繋がります。

現在、地域医療の現場では指導医や教育時間の不足が問題となっています。当院の総合診療科は、県内の医療機関とも連携して愛媛県の総合診療医養成の核となり、愛媛県全体の医療水準の向上に貢献していきたいと考えています。全身倦怠、食欲不振、体重減少、不安、めまい、頭痛、浮腫、発熱、関節痛、検査結果異常などで悩みの患者さんがおられましたら、ご紹介下さい。



PROFILE

かわもとりゅういち◎1985年自治医科大学卒業、医学博士。県立中央病院などを経て1993年から西予市立野村病院に勤務、1998年から同病院副院長、2009年から愛媛大学医学部地域医療学講座教授。専門は、総合診療科、一般内科。趣味は、ジョギング、映画鑑賞。好きな言葉は「上をみて生きろ、下をみて暮らせ」。

FROM VIP DOCTOR

愛媛大学医学部附属病院に期待すること 『VIP DOCTOR に聞く』

患者さん目線で医療ができる医師の育成を期待します

県立新居浜病院院長 酒井 堅

最も期待していることは、2017年度から始まる新しい専門医制度で、愛大独自の魅力ある専門研修プログラムを作成することです。新専門医制度では、全ての若手医師が地域医療を一定期間経験します。愛大の研修プログラムに魅力を感じて来県した若手医師が、地域の現状や働く医師の姿勢を年単位で経験し、地域医療の魅力に気づいてくれたらと願っています。もう一つは、外科系の若手医師の育成です。愛媛の外科医はあと5年ほどでかなりの人数がリタイヤします。このままでは、近いうちに手術ができる地方の病院が無くなりかねません。若手医師を定期的に確保することが難しい状況ですが、特に外科医の育成は急務だと思います。愛大は、手術手技研修センターでの実践的な内視鏡手術等の研修や、先端医療創生センターでの地域医療との橋渡し研究、女性医師の就職支援など、斬新な取り組みが多く、頼もしく感じます。愛大医学部を卒業する学生で愛媛に残る学生が、四国の他大学に比べて2倍以上と圧倒的に多くなっているのは、こうした取り組みで、愛媛に魅力を感じた結果だと思っています。このような強みをもつ愛大と連携し、私たち地域医療に携わる医師が若手医師と一緒に現場を活性化させ、県全体の医療レベルを底上げしていきたいと考えています。



PROFILE

さかいけん◎1978年鳥取大学医学部卒業。同年愛媛大学第二外科入局。県内各医療機関で外科医を務め、2006年から2年間、愛媛県立中央病院で副院長を務める。2008年4月から現職。専門は消化器外科。趣味はゴルフと映画鑑賞。

愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

明日の愛媛に羽ばたく若手医師が研鑽を積んでいます



総務課臨床研修チーム 089-960-5098

今春医師となり、愛媛の病院を臨床研修先として選んだ人は、過去最多97人（前年比+15人）でした。医師不足が深刻化する中、地方愛媛で研修医が増加するのは、県内の医療機関が「チーム愛媛」で連携を強化したことも要因と考えられます。

当院の臨床研修プログラム「アイプログラム」も全国屈指のシミュレーターや手術手技センター等を利用し、全国トップクラスの研修ができることをアピールしています。また、県内の臨床研修病院とたすきがけ研修を実施し、研修医に愛媛の地域医療の現場を体験してもらい、地域の魅力もアピールしています。4月1日から他病院の研修医と、当院で賑やかにオリエンテーションも行いました。

今後も県内へ若手医師を呼び込み、愛媛の医療の維持・発展の為、「チーム愛媛」で「愛」のある研修を行います。今は未熟な研修医ですが、研修を通じて大きな翼を持った立派な医師として羽ばたき、県内の病院を駆け巡ることを期待しています。

愛媛県初！ 第一種感染症病棟が竣工



当院は、患者さんや医療従事者及び近隣住民を感染症から守るための施設「第一種感染症病棟」を設置しました。

第一種感染症とは、エボラ出血熱等、感染力・重篤度が極めて高い感染症のことです。

当施設は、細菌の外部流出を防ぐ為、専用の排水設備があり、病室は、空気感染する可能性のある細菌が外部流出しないよう、気圧の低い「陰圧室」になっています。安全な環境の中で、患者さんに検査・治療を行うことが可能となっています。

施設課 089-960-5160

編集後記

誌面でご紹介の様に、愛媛県内で臨床研修を行う医師が増加したのに伴い、当院も今春フレッシュな研修医を大勢迎えることができました。表紙の写真は、今年度の新人研修医と看護師です。研修医が研修修了後に1人でも多く愛媛に定着してもらえるよう、当院では現在、魅力ある専門医プログラムを作成しています。また、各地区の指導医と連携を図り、愛媛に魅力を感じてもらえるよう今後も努力していきたいと思っております。

本号では、新教授として活躍している眼科学講座白石教授の紹介、新たに設置した地域消化器免疫医療学講座、総合診療科の紹介、当院に期待することについて愛媛県立新居浜病院酒井堅院長からお話を伺っています。

新年度を迎えましたが、今後も患者さんが安心できる病院を目指し、さらなる発展に努めて参ります。今後ともよろしくご協力致します。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙

病院長 三浦裕正

看護部長 田淵典子

総合臨床研修センター長 高田清式

新人研修医 看護師

連携病院長会議を開催



平成28年3月5日（土）、当院と県内外の医療機関が、人事交流、先進医療、地域医療等の情報交換を目的に、第28回愛媛大学医学部連携病院長会議を開催しました。会議では、愛媛県内の医療を取り巻く環境・臨床研究等の現状や課題を議論し、続いて当院の臨床実習の現況について報告しました。総会では、佐々木健課長（厚生労働省）らの講演があり、交流を深めるよい機会となりました。

総務課企画・広報チーム 089-960-5943

エイズネットワーク会議を開催



平成28年2月3日（水）、平成27年度エイズ診療ネットワーク会議を開催しました。本会議は、県内のエイズ診療体制の充実を図り、エイズ診療病院の医療従事者及び関係者がエイズ診療に関する情報交換を行い、エイズ診療の充実を図ることを目的に開催しています。会議では、大塚有加先生（愛媛県立衛生環境研究所）、上田陽子先生（松山赤十字病院）等から、愛媛県内のエイズの届け出状況や最新の治療について報告がありました。

総務課企画・広報チーム 089-960-5943



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 ☎089-964-5111（代）
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>